

【授業の全体計画】 教室はA V教室です。

- 第1講 9/28 博物館の構想と計画、提出課題「私が考えたミュージアム」の説明
- 第2講 10/5 博物館の定義と学芸員の倫理規定、博物館法の改正
- 第3講 10/12 動物園水族館の法令と飼育基準
- 第4講 10/19 建築のバリアフリーとユニバーサルデザイン
- 第5講 10/26 予算と財源、日本の博物館総合調査 1
- 第6講 11/2 資料購入費と研究費、日本の博物館総合調査 2
- 第7講 11/9 オホーツク流氷館の設立と経営
- 第8講 11/15 見学：オホーツク流氷館【水3博物館実習の時間に実施】
- 第9講 11/30 展示の進行管理 1
- 第10講 12/7 展示の進行管理 2
- 第11講 12/13 博物館の運営と評価、指定管理者制度ほか【水3博物館実習の時間に実施】
- 第12講 12/14 水族館経営の実際：標津サーモン科学館館長講話
- 第13講 12/21 学芸員の労働実態と任用の将来、課題のQ&A
- 第14講 【遠隔授業】 博物館の評価と改善 1 「地域博物館への提言」
- 第15講 【遠隔授業】 博物館の評価と改善 2 「ミュージアムが都市を再生する」

10/11 (水) 3-4 時限

3Dアプリ Blender の授業

足寄動物化石博物館の新村学芸員

休講：1/11。

第1講 博物館の構想と計画【課題の説明】

参考URL *おすすめ資料

北海道立北方民族博物館「博物館紹介」趣旨、沿革、施設 <http://hoppohm.org/museum/index.htm>

北海道博物館「北海道博物館について」 <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/about/>

葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想* 1.5 MB <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/zoo/kouen0063.html>

新琵琶湖博物館創造基本計画* 2.2 MB <https://www.biwahaku.jp/uploads/h2604lbmvision.pdf>

新琵琶湖博物館創造第1期実施設計(案)概要版 <https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/1045350.pdf>

新琵琶湖博物館創造第2期実施設計(案)概要版 https://www.shigaken-gikai.jp/voices/GikaiDoc/attach/Nittei/Nt7541_03-2.pdf

新たな「人と自然の博物館基本計画」 1.1 MB <https://www.hitohaku.jp/infomation/organization/kihonkeikaku-1.pdf>

高知県立足摺海洋館基本計画* 10.3 MB

https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020601/files/2015100200197/file_20151025132914_1.pdf

石垣市水族館建設推進基本計画* 23 MB https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/material/files/group/9/suizokukan_kihonkeikaku.pdf

石垣市水族館建設推進基本構想* 13.8 MB https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/material/files/group/9/suizokukan_kousou.pdf

1. 博物館ができるまで

建築や展示の進行状況と学芸員配置との関係が、施設の使い勝手に反映される。設置者と現場との力関係も

1) 北海道開拓記念館＝2015年から北海道博物館

年	道庁内	民間協議	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1962	開道百年記念事業準備委員会設置				
1963	北海道立博物館建設促進期成会結成				
	北海道開拓記念物等調査開始				
	北海道博物館建設促進委員会				
1965	開道百年記念事業協議会（道内各種団体）				
1966	北海道百年記念事業実施方針発表				
	北海道百年記念事業準備室設置		開拓記念館構想協議（準備室）		<u>学芸員少数配置</u>
	展示計画の研究（北海道大学に委託）				
	開拓記念館資料収集計画作成				
1967	北海道開拓記念館開設協議会設置				
	展示計画の研究報告書				
	構想決定（協議会）				
1967	展示計画の検討（元市立函館博物館館長に依頼）				
1968	資料収集基本方針（3月）				
	「寄贈を原則」と定める、各地に「資料調査協力員」				
	仮収蔵庫使用				
	展示構想試案作成（4月）				
	開道百年記念事業（昭和43）				
1969	基本設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	<u>学芸員の増員（4月）</u>				
	常設展示計画案（10月）				
	業務計画案（11月）				
1970	実施設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	学芸員26名				
	展示工事発注（9月）				
1971	常設展示完成（3月）				
	開館（4月14日）				
1992	常設展示の改訂（4月16日公開）				開拓使の門の撤去
2015	北海道博物館として再出発				開拓と入殖者の消去
	組織改組：北海道立アイヌ民族文化研究センターを併合				

出典：北海道開拓記念館三〇周年記念誌編集委員会（2002）北海道開拓記念館三〇周年記念誌。

北海道博物館（2017）北海道博物館要覧2015.

2. 北海道立北方民族博物館

年	道庁内	網走市・民間	資料収集	博物館・展示	<u>学芸員・職員</u>
1970			北方民族資料館構想（網走市）		
1971			網走市が知事に道立北方民族資料館設置を要望		
1982	博物館設置調査費予算化				
1984				北方民族博物館計画専門委員会開始	
1985				「北方博物館の整備の在り方について」	
1986				「北方民族博物館の設置構想について」	
			北方民族文化シンポジウム開始		
1988				基本計画策定（3月） 基本設計（11月）	
1989				実施設計（3月）	
	北方民族館係設置（4月）				<u>学芸員採用</u>
			北欧・北米で資料収集（以降毎年世界各地で資料収集＝購入）		
				建設着工	
1990				建設竣工（3月）	
			網走市より資料寄贈		
	道立博物館条例制定（3月、5月施行）			展示工事着工（5月）	
1991				展示工事竣工（1月）、開館（2月10日）	
	登録博物館認可（3月）				

出典：北海道立北方民族博物館・北方文化振興協会（2002）北海道立北方民族博物館設立10周年記念誌。

3. 足寄動物化石博物館

年	町教委	民間団体	資料収集	博物館・展示	<u>学芸員・職員</u>
1976			束柱類第1標本（アショロア）発見		
1980			束柱類第2標本（ベヘモトプス）発見		
1984	化石作業所の開設		アメリカとの資料交換		
1989	「足寄動物化石群研究の記録」発行				
1991					<u>研究員（学芸員）採用</u>
1993				基本構想	
1994	博物館係設置		基本設計		
1995		アショロア北大から移管		用地取得／実施設計	
1996				着工	
1997	条例策定				
1998				竣工／開館	
2010		NPO法人あしよろの化石が指定管理者として運営開始			<u>学芸員1名増員</u>

出典：足寄動物化石博物館「施設概要」 <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp/info/institution.html>

宇仁義和. 2011. 地方博物館の評論とその教材化. 全博協研究紀要, 13: 23-35. http://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/files/uni2011_chihaku.pdf

提出課題：私が考えたミュージアム：評価の配分は本課題100%です。

休憩 1720から再開

自分が考えたミュージアムの「基本構想」「基本計画」「展示計画」を記述し、「博物館敷地全体平面図」「博物館本体平面図（2階建て以上ならそれぞれの）」「常設展示室平面図」「最重要資料コーナーのパース」を描き、「グラフィック」数点を作成する。実在する場所での設置とし、その実現可能性は問わない。

既存施設のなかに設置するのはよいが、実在する博物館の改善策は不可。

様式

プリントアウト：A4判両面印刷、紙はコピー用紙、計5枚

手書き：A4判、110kg紙、計4枚。用紙は配付する

上記をクリアフォルダに入れて提出、表紙禁止、ホチキス止め不可

課題1-2：コンピュータ作成、1行40字でモノクロ印刷。フォント：明朝または細ゴシック10-11ポイント

課題3：手書き、色数自由、画材は鉛筆シャープ以外（色鉛筆は可）、修正液使用可

課題4：コンピュータ作成、実際に展示に使用することを想定したデザイン・レイアウト

*学科・学籍番号・氏名をすべての提出紙の表面最上部に記入のこと（すべて手書き可）

提出期限 2024年1月17日（水） 研究室レポート入れ

評価のポイント 様式、内容、美しさ、独創性

課題内容

1. 基本構想と基本計画 A4判1枚両面印刷

基本構想：表面

- 1) ミュージアムの名称（日本語および英語）各1行
- 2) 設置目的 200字前後 ※その博物館の不変の目的
- 3) 資料収集の方針 400字前後

*基本構想では具体的な場所に言及しない

基本計画：裏面

- 4) 設置者と運営者、それぞれの法人格の種別 1行
- 5) 立地 周辺環境の概要 200字前後
- 6) 建築 本体と敷地の概要 400字前後
- 7) 職員 全体の職員配置と人数 組織図
- 8) 2020年代前半における使命 80字前後

*基本計画は土地建物職員を特定する。

職員数も概数で規定する。図面では「基本設計」

2. 展示計画 A4判1枚両面印刷

- 1) 常設展示室の役割 箇条書き不可 200字前後
 - 2) 展示の方針 構成や内容ではない、2-4項目
- うたい文句+本文 400字前後

高知県立足摺海洋館基本計画

石垣市水族館建設推進基本構想



第3章 集客想定と収支バランスの検証、建設条件整理

4) 敷地の選定

新しい水族館の敷地選定にあたり、現在地の他にA-D用地について、コスト、ロケーションなど多角的に検証を行いました。

電申請との連携がとりやすいこと、立地条件、利便性、取水排水の確保などから、現在地を選定しました。

候補地	現在地	A	B	C	D
所有者	高知県	高知県観光開発公社	国(官有地)	高知県	土佐清水市
敷地面積(m ²)	11,670.66	6,300.00	12,200.00	7,650.00	6,100
用地取得経費	国有地のため必要なし =58,527千円	9,280円×6,300m ² =58,527千円	9,280円×12,200m ² =113,338千円	国有地のため必要なし	9,280円×6,100m ² =56,608千円
ロケーション(目の前の海との一体感)	3階レベルから眺望が確保できる。	地上レベルで海への眺望が確保できる。	地上レベルで海への眺望が確保できる。	海とは国道を隔れているため、海への眺望なし。	漁港に面するため、観水空間や海への眺望の確保が難しい。
観客・観導アクセス	国道沿いであるため、施設が視認しやすく、誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	国道沿いであるため、誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	現在地を駐車場として利用するのであれば、国道沿いのため、誘導が容易である。車のアクセスは良好。	国道沿いであるため、視認しやすく、誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	国道からの視認性が低く、誘客のPR効果が薄い。車のアクセス良好。切り下げが狭く大型バスが回転しにくい。

【図表 3-27 候補地】

3) 常設展示室の構成

展示室>展示テーマ>展示コーナー>展示資料という階層構造
テーマ名(3-6個、番号付ける)とその概要(各40-80字前後)
コーナー名(各テーマに2-4個)とその概要(各40-80字前後)
おもな展示資料(資料名と種別、各コーナーに1-5種類を明記)
テーマごとの想定観覧時間と合計観覧時間を記入すること

3. 図面 A4判1枚片面縦横自由(手書き)×4

1) 博物館敷地全体の平面図

附属施設や設備を明記のこと

立地周辺施設との関係を簡潔に書き入れる

2) 博物館本体の平面図

出入口と空間の区割りを明記すること

公開区域と非公開区域の線引きが明確であること

観客動線と職員動線を記入すること

資料搬入口を明記のこと

石垣市水族館建設推進基本計画

3) 常設展示室の平面図

新琵琶湖博物館創造基本計画

出入口を明記すること

ケース・ステージと通路を判別可能にすること

テーマ名(番号も)とコーナー名を記入して範囲を示すこと

最重要資料の展示場所を矢印で示すこと

4) 最重要資料の展示コーナーのパス

補足資料を含め、それぞれの資料名と種別を明記する

資料や展示、補助具などの説明を簡潔に書き入れること

4. グラフィック A4判1枚片面縦横自由×3

※拡大印刷すれば実際に使用可能なフォント、レイアウト、

デザインとすること。文体にも配慮。文字だけでもよい

1) 館長あいさつ

タイトル: 1行、本文: 200字前後

博物館の設置目的や使命の内容を含み、

館長あるいは設置者の意向を反映させる内容

2020年から向こう10年間程度の使命を中心に記すこと

2) 常設展示室の概要

タイトル: 1行、本文: 400字前後

学芸員の収集努力や資料選定意図が伝わる内容のこと

3) 最重要資料の解説パネル

タイトル: 1行 資料名・資料種別1-4行 本文: 200-800字

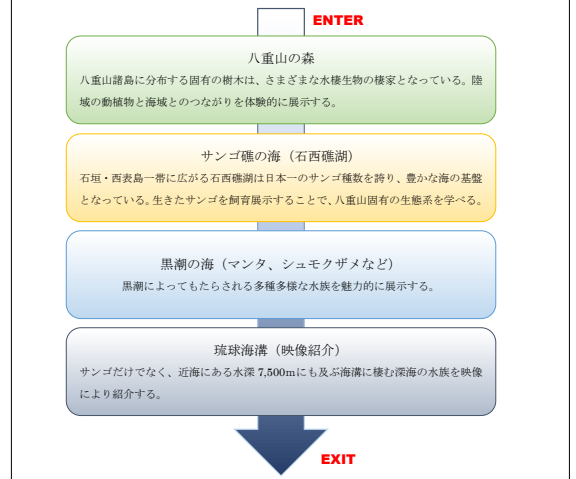
3. 展示基本方針

(1) 展示基本方針の検討

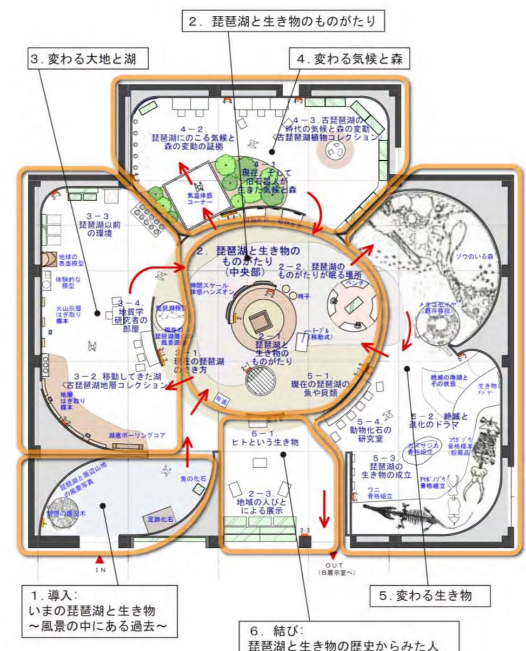
基本構想で検討した展示基本方針「八重山諸島の自然環境の体験的ストーリー」をベースとしてモデル地に適した展示展開ストーリーを検討する。

■ 展示基本方針

- ・八重山の森、マングローブ、イノー、サンゴ礁の海、黒潮の海、深海(琉球海溝)などから展示構成され、そこに生息する動植物・水族の生態と環境を展示する。
- ・研修室を設け、五感を通して自己の想像力が高められる、参加体験型の展示計画とする。
- ・野外体験ツアー、海人(ウミンチュ)体験、地域イベント情報提供など観光ネットワークに留意した展示計画とする。



【A展示室ゾーニングイメージ図】



国立科学博物館企画展「標本づくりの技」2018